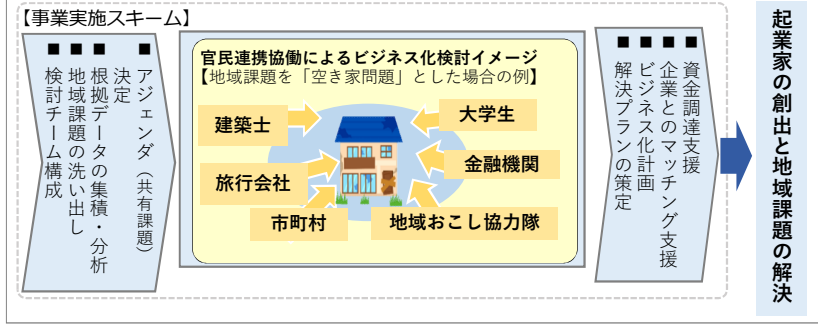


## ◆ ソーシャルイノベーション創出モデル事業（yamagata yori-i project）の進捗状況

### 1 事業概要

事業実施主体 山形県企業振興公社



#### point 1

新ビジネス創出の拠点施設「スタートアップステーション・ジョージ山形」にプロジェクトメンバーによる伴走支援体制を構築。

#### point 2

最上地域をモデルエリアに選定し、金山町、真室川町、鮭川村の3町村においてデータの集積やヒアリングを実施。

#### point 3

産学官や業種などの部門を超えた多種多様な人々がデータに基づく課題を共有し、同じ方向で解決に取り組むコレクティブ・インパクト（官民連携協働）手法を導入。【県レベルでは全国初の取組み】

#### point 4

ビジネス化や、ビジネス展開に向けた実証実験に結びついた事例をモデルとし、将来的に県内へ横展開。

#### 【プロジェクトメンバー】

- チーフコーディネーター 小野寺忠司 教授  
(山形大学アントレプレナーシップ開発センター センター長)
- プロジェクトコーディネーター (若手起業家 等)

#### 【最上地域をモデルエリアとした理由】

令和2年国勢調査の結果、人口減少率が県内4地域で最も高くなっているため、まずこの地域からということで取り組んでいる。また、積雪も多く、高齢化や若者の流出に歯止めがかからないといった厳しい環境下という意味で課題の先進性もあると捉えている。

#### yamagata yori-i project (やまがたよりいプロジェクト)

※より多くの方に関心と親近感を持ってこの事業を認知してもらうために、事業の“愛称”を設定

「ちょっと”よりあい”行ってみっぺ」  
「よりあい”さ話してみっぺ」

本当の意味でセクターを超えて誰もが参加できる場であるために寄り合って、燃りあって、より愛する故郷へ

### 2 これまでの実施経過

#### 5/31 記者発表

「スタートアップステーション・ジョージ山形」において事業説明を行い、事業を担当するコーディネーター等を紹介。



#### 6/22 キックオフ

新庄市の最上広域交流センター「ゆめりあ」にてキックオフイベントを開催。

- ・ボードメンバーの顔合わせ
- ・地元高校生による次世代トークセッション
- ・「地域のビジョン」検討会 等



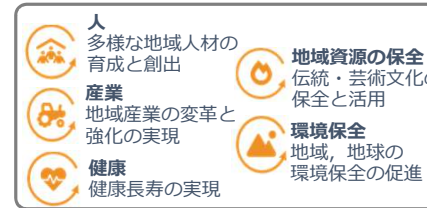
#### 7/23・7/24 フィールドワーク

山形大学人材育成プログラム受講の学生・社会人が金山町、真室川町、鮭川村で社会課題解決型ビジネスアイデア構築のためのフィールドワークを実施。



#### 8/17～8/22 アジェンダ説明会

最上総合支庁、産業創造支援センターにおいて、参画するボードメンバーに抽出された5つのアジェンダを説明。



約110（個人を含む）者のボードメンバー

×

約20（R4.11.22現在）件のビジネスアイデア

【ボードメンバー】  
本事業に賛同し、ビジネス化を含む課題解決に参画する個人・団体

地域課題解決型  
ビジネスモデルの創出

### 3 創出された事業

#### 第1弾（令和4年8月31日記者発表）

#### 一般社団法人 最上イノベーションエクスキュート

アジェンダ：人  
解決する課題：教育サービス不足への対応

#### 【目的】

- ① 中高生のアントレプレナーシップ（起業家精神）の醸成
- ② 論理コミュニケーション力を身につける場の提供
- ③ イノベーションをもたらす新たな価値を創出するための思考・行動要素を持つ人材の育成

#### 【参画企業】

株式会社JPD、株式会社ヤマムラ、学校法人新庄学園



#### 第2弾（令和4年9月30日記者発表）

#### 最上地域早生桐産業創造プロジェクト

アジェンダ：環境保全、産業  
解決する課題：森林資源減少の抑制

#### 【目的】

杉に比べて成長の早さが10倍、二酸化炭素の吸収量が5倍の早生桐の森林造成を通じて以下のことを目指す

- ① 荒廃している土地の再利用等による環境の保全
- ② 桐材の商品化等による地域林業の再構築

#### 【参画企業】

株式会社佐藤運送、有限会社グリーンバレー 等



2年目の早生桐  
直径14cm



5月植栽の早生桐  
人物は身長170cm

#### 第3弾（令和4年11月14日記者発表）

#### 「大学食堂おいしい山形」プロジェクト

アジェンダ：人、産業  
解決する課題：交流人口の拡大、地域所得の向上

#### 【目的】

首都圏の学生が最上地域の食材をふんだんに使う「学生食堂」を東京都内（予定）に開設し、そこで最上エリアの地域資源をPRすることにより、最上地域の持つ価値の再構築と山形ファンづくりを行う。

#### 【参画企業】

一般社団法人スマートニッチ応援団



- ・大学食堂そのものをモデルルームとして、最上地域、さらには山形県産品全体を発信していくことも想定
- ・「上質なもの」を求めて大学食堂を訪れるようになることで、県産品のブランド化を推進し、山形県産品の新たなファンマーケットの構築も目指す



今後の展開等

- ◆ 各アジェンダ分科会発のアイデアや、地域に根差してやってきた活動、県外企業からの提案など、様々な新しいビジネスアイデアがこのyamagata-yori-i project をハブにして「寄り合っ」ており、最上地域での実装に向けて確実に進んでいることに加え、ボードメンバーやビジネスアイデア数も継続して増えており、メディアからの注目も集まっている。
- ◆ イベントの実施等ではなく、経済効果を出すこと、利益を生み出すエコシステムをつくることを目指し、引き続き事業を展開していく。